

編集後記

今年は“現代医学”創刊から70年目である。昭和25年11月発行の第1巻第1号の編集後記に創刊の経緯を読むことができる。当時の日本にはAnnual Review式の総説的出版が少ないことや、東西に比べて名古屋の出版社が振るわないという共通認識のもと、東海地区、さらには中部地区の医科大学が協力して医学雑誌を作ってはどうかという話が持ち上がった。しかしこれは色々な事情で実現せず、「医師会即ち医学会」という当時の愛知県医師会長の英断によって県医師会の雑誌としてスタートしたことが記されている。歴代の錚々たる編集委員が尽力され順調に発展した“現代医学”であったが、医学が高度化・専門化しネット情報があふれるなか、県医師会員だけに限定された医学雑誌はそのあり方を問われることになった。

昨年編集委員長を拝命して初めて、この伝統ある医学雑誌の質が高い割には読まれていないこと(2014年以降はオンラインジャーナルとなったためクリック数で判る)や、発行期日が予定よりも遅れていることを知った。そこで編集委員会メンバーや医師会幹部と相談し、1)出版作業はプロの出版社に委託すること、2)著作権利用やCOI開示等にも対応すること、3)オープンアクセス化を検討することを新たな方針とした。オープンアクセス化とは雑誌をWeb上で無料かつ制約なしに閲覧可能な状態に置くことで、学術誌などではかなり増えている。出版費用は著者が負担する形となっているものが多いが、“現代医学”については愛知県医師会がこれまで通り負担する形になる。この場合のメリットとしては、誰でも掲載論文へ迅速かつ無制限にアクセスできる、Web検索の対象となる、著者の執筆意欲が高まりより質の高い論文投稿が期待できるなどがある。一方、著作権利用や著作権などに一層の注意が必要となる、商業利用や広告に使われる可能性がある、医学的あるいは社会的な倫理問題や利益相反開示など対応すべき事柄が増えるという側面もある。

次号からはオープンアクセス化を予定している。この大きな決断をいただいた県医師会長に感謝するとともに、「筆をおとり下さる方も雑誌をお読みいただく方もそのつもりで何卒御協力御援助願いたい」「此現代医学の理想は一地方雑誌の内容外観でなく全国的雑誌とし羞かしからぬ高級の雑誌で而も一般開業医の方々に喜ばれるものでありたいということにある」(カギカッコ内は創刊号編集後記のまま引用)。

(直江 知樹 記)